

球磨工業高校 教務だより 10月号



令和2年(2020年)10月30日発行

「先輩後輩との接し方」

11月を目前にして、寒さが増してきています。体調を崩さないよう健康管理に気をつけてください。今月のテーマは「先輩後輩との接し方」です。後輩は、先輩から知識や技術のみならず、人との接し方や話を聞く態度、失敗したときの立ち直り方など、いろいろなことを教えてもらいます。時には、先輩の言っていることが理解できず、もやもやすることもあるでしょう。それは逆に、先輩からしても同様です。後輩のためを思って言っているのに、なんで理解してもらえないのだろう、なんで行動が変わらないのだろうと、思い悩むことがあります。重要なのは、先輩と後輩がお互いに、行動や心について変えられるものと変えられないものがあるという、心理的柔軟性を身につけることです。心理的柔軟性には3つの要素があります。

はじめに、先輩後輩と一緒に取り組んでいると、取り返しがつかないように感じるミスや想定外のトラブルは必ず起きます。このミスやトラブルは、起きてしまったことは変えようがないので、前向きに対応し「やれることを、やる」しかありません。失敗した後輩を責めたり、しなければ良かったと後悔したりしても、何も前に進みませんが、「責めたい気持ち」や「後悔」という心の部分は、自然と湧き出てくるので受け入れるしかありません。**起きた事実や人の感情は変えられないと柔軟に受け入れる**しかありません。

次に、「集中しろ」とか「気をつけろ」、「気合いが足りん」などの根性論ではなく、行動や習慣、考え方のどの部分を変えれば良いのか、変えられるものに取り組むことが大切です。何をすれば良いのか判断するには、自分自身あるいはチームとして達成したい目標を言葉にすることが重要です。先輩後輩が同じ目標を共有できれば、ダメな部分を探すのではなく、少しでも目標に近づく行動や習慣、考え方に変わらせます。**目標を達成するために、変えられるものを柔軟に考えて**取り組んでいければ、理想的な先輩後輩の関わり方になります。

最後に、変えられないものと変えられるものを見分けるのは簡単ではなく、意外に難しいものです。先輩後輩が付き合っていく中で、いくつもの「大切なこと」があります。目標、結果、絆、などの大切なことは、状況や立場、話の流れで、その優先順位は変わります。「このシュートが決まれば試合に勝つ」というときに、先輩との絆が大切だから、シュートが上手な2年生ではなくシュートは苦手だけど先輩の3年生にシュートさせよう、とはならないはずですが、**この瞬間、この状況では「どの大切なことを、いま大切にすると良いか」を柔軟に判断**することで、先輩と後輩が納得感を持って物事に取り組めるのではないのでしょうか。【参考文献】石井遼介「心理的安全性の作り方」2020,日本能率協会マネジメントセンター

上下関係について

保健体育科 松本幸介

私たちはこの日本の社会で日々どのようなことを考え、どのようなことに疑問を持ち生活しているのでしょうか。苦しいことや楽しいこと様々な観点に立って考えてみると「人は一人では生きていない」ことに気づくことができます。そうなる自分以外に相手が必ずいることになり。その人が自分にとって都合が良い人であれば問題はなく、ストレスもなく日々平穏に楽に人生を過ごせます。ではそのような人ばかりすぐそばにいますか？たぶん多くはいないはずです。日本には古来から上下関係や階層社会といった特有の価値観があります。これは韓国も同様だそうです。学校生活では、部活動がその代表だと思えます。集団で行動をし、チームワークを大切に目標達成のために日々邁進していきます。礼儀や挨拶を重んじます。時には先輩から叱咤されたこともあると思います。なぜそのようなことを行うのか、それは社会生活に必要なアイテムを高校生活の中で構築し、将来職場環境への適

応や人間関係の構築、さらには、就業の継続のための準備を行っていると思います。年齢差がそれほどないのに「何偉そうなことを言っているのか」と不満を持っている人がいるかもしれません。全て言いなりになれとは言いません。それが後になって役に立つんだ、自分を助けることにつながると私は言いたい。このような経験が今後の社会生活においてスムーズな人間関係を構築し職場環境への適応ができる前と話をしましたが、その他にも他者への配慮、協調性、問題への対応力、忍耐力、精神力のアップになり、習得することで自分の価値観を引き上げてくれると私もスポーツを経験して理解してきましたし、そのことで救われたこともたくさんありました。先輩を信頼し、後輩を大切にすることでこの世の中は、この日本は輝いてきました。球磨工で生活することを将来のためと考え、一緒に仲間になれるように相手を尊敬できる球磨工生であってほしいと願います。これから先がもっと大変ですが、やればできます。球磨工生！

柔軟性を身につける

建築科 多武正吾

皆さんこんにちは。建築科伝統建築コースOBの多武です。私は実習教師に就きまして4年目ですが、以前は奈良で20年ほど宮大工の修行を積んできました。今回は**先輩後輩との接し方**について私のこれまでの経験を交えて皆さんにお伝えできたらと思います。

私は、本校在籍時にバスケットボール部に所属しており、3年生の時には副キャプテンを務めましたがお世辞にも周りとの接し方が上手いとはいえませんでした。当時の指導者には**チームの中での自分の役割や考えることの重要性**を教わりました。先輩方には**節度のある厳しさ**で接してもらい、その**前向きに取り組む姿勢**が手本になりました。先輩達が築きあげた県ベスト8レベルのバスケットボールを3年生の時の総体で達成できなかったため悔やんだことを思い出します。

その後は中学生からの目標である**宮大工になる**ことにシフトして、当時の先生方のお力添えのおかげで奈良の社寺建築を営む工務店に就職できました。最初の**5年間は**大工見習い****として職人の世界の厳しさを知り、10年目以降は**職長として現場の責任者の立場**も増えました。見習い期間はとにかく仕事を覚えることが必要でしたが、学校の先生のように一から十まで教えてくれません。厳しい環境の中でも仕事の行程や納まりを覚える必要があるため、目上の職人さんの**技を見て盗む**もしくは**上手に聞き出して覚える**しかありません。ただ、毎回理解できないところを聞ける雰囲気

気ではなく手を止めて人の作業を見ていたら今度は怒られますのでかなり苦労しました。大変な環境でしたが**諦めず真面目に取り組む**ことで乗り切ることができたのではないかと考えています。また10年目以降の職長としての現場責任者の立場では施主や他業種と関わる場面が増え、仕事の内容が周りの人の作業の段取りをすることに変わりました。そのときの課題や自分の考えを**周り**と相談して**共通認識**することで現場を上手く回すことに繋がりました。

以上が私の民間での経験です。私は高校時代の部活動では結果こそ残すことができませんでした。その後の社会人として生きていく上で重要な**人格形成の場**であったと後になって気付きました。また、ものづくり系の職業は**効率性・安全性を重視**されます。それを達成するためには**周りの人との連携が必須**です。しかし、人というのは性格も思考も十人十色です。そのような中で周りとの良い関係を保つためには**心の在り方**が大事ではないでしょうか。他人がどう考えているのか興味を持ち**柔軟な姿勢**で会話をすると連携が生まれ作業が捗ります。皆さんも社会に出てからの自分の為だと思い、まずは学校活動の中で先輩後輩と柔軟な姿勢で接するように心掛けて下さい。

11月の行事予定

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
2 【火曜日課】 (検)国語,SC面談 球磨工作品展示 (~11/6)	3 文化の日	4	5	6 漢字検定 SC面談	7	8 電気施工管理 技術検定試験
9 (検)数学	10 歯科検診① SC面談	11 生徒研究発表会 (熊本大学)	12 (服) 校内公開授業 週間(~18日)	13 ⑥献血セミナー	14 レクリンク技能検定	15
16 (検)英語	17 歯科検診② SC面談	18 【金曜日課】 ⑥性教育講演会	19 献血	20 【水曜日課】 計算技術検定	21 専攻科後期選抜	22
23 勤労感謝の日	24	25	26	27 ⑥生徒会役員選挙	28	29
30	1 期末考査	2 期末考査	3 期末考査	4 期末考査	5	6